

内海機械、新工場が稼働

水力設備向け部品製造

金属部品製造の内海機械（本社＝広島県府中市、内海和浩社長）は25日、本社敷地内に建設した新工場の稼働を始めた。このほど新規受注した水力発電設備向けの部品製造のほか、増加している短納期での部品製造ニーズに対応する。同日、現地で新工場の落成式と見学会を開いた。

MC加工で長尺対応

本社敷地内に3棟目となる加工工場を建てた。新工場の敷地面積は1080平方メートル、建屋は鉄骨造平屋建てで床面積は420平方メートル。工場内には1メートルの天井クレーン2基を設置した。

建屋内にはヤマザキマザック製の立形マシニングセンター「VT-C1530/20」を導入。既存のマシニングセンターでは対応できなかった長さ2000ミリまでの長尺品の加工

が可能になった。既存の大型旋盤でフル稼働が続いていることから、年明け頃には複合旋盤加工機1基も新設する。

同社は各種旋盤加工機、マシニングセンター、研削盤などを複数保有し、産業機械向けな機械加工部品の超短納期製造を得意とする。



内海社長



稼働を始めた新工場

る。近年はIoTを活用した設備稼働状況の可視化、段取りロスの最小化などの生産ロスを最小化

するAI分析システムの導入、多能工などで生産性を大幅に高め、依頼が増え続けている短納期での部品製造に対応している。

落成式には県や市、取引先の担当者などが訪れ、同社工場の見学会も実施した。式典で内海社長は「新工場の

完成で内海機械は新たなステージに入る。さつくりと貢献していきたい」と述べた。